

『職業教育学の探求』の創刊にあたって

センター長 横山悦生

名古屋産業大学に職業教育研究センターが設立されたのは、2022 年 8 月 1 日であった。名古屋産業大学の歴史を辿ると、その前身は、タイプピストを養成する各種学校として始まった。その創設の理念は、女子のための職業教育を行なうことにおかれていた。この理念は現在も名古屋産業大学の基本的理念であり、今日においても変化していない。多くの私立大学では、そこで実際に行なわれている教育が職業教育としての機能を果たしているにもかかわらず、職業教育それ自体を研究するような研究所をおいている大学はこれまで皆無であった。職業教育は一人一人の人間が職業的な自立を達成するための営みであり、すべての人間にとって不可欠の教育である。歴史的には、各種学校、専門学校、高校専門学科、短期大学、大学などをはじめ、さまざまな教育機関が存在している。これらの教育機関で行われている教育的な営みを研究対象とした研究は、他の研究分野と比較すると遙かに遅れている。その点で、職業教育研究センターが設立された意義はきわめて大きい。本研究センターはさまざまな職業教育についての研究を行うことを主な任務とし、以下の 4 つの研究部門をもって発足した。

(1) 職業教育の歴史・比較研究部門 (2) 企業内教育研究部門

(3) インターンシップ・キャリア教育研究部門 (4) 教育福祉研究部門

職業教育研究センターの一つの研究部門として教育福祉研究部門をおいているのが、本センターの特徴でもあると考えている。今日の大学ではさまざまな背景を抱えて入学してくる学生が存在している。そういう学生たちを対象とした職業教育をどのように組織していくのか、このような実践的な研究課題もこの教育福祉研究部門では取り上げることを想定している。

2023 年 1 月からは、さらに新たに二つの研究部門、(5) 高等教育研究部門 (6) 産業遺産と職業研究部門 が加わった。今後、各部門を中心として科研費や民間の奨学金などを獲得して活発な研究活動の展開が期待される。

本研究センターの活動には、現在 10 数名の学外の共同研究員が参加している。この共同研究員は、職業教育研究に関心のある方なら誰でも研究活動に参加できるように、広く門戸を開放している。定年退職後、所属がない研究者など、職業教育研究に関心のある研究者には積極的に参加していただければと考えている。科研費の申請などでその方々のアイデアをいかしつつ、この分野の研究をますます発展させたいと考えている。

本創刊号に掲載した「シンポジウム特集」は、昨年 12 月 10 日にセンター開設記念シンポジウム「職業教育研究の課題」での報告をもとに執筆していただいた。また冒頭には Maarit Virolainen 氏にフィンランドにおける職業教育・訓練をめぐる最近の動向について寄稿していただいた。今後も国際的な動向を紹介できればと考えている。